

解説シート

鳩笛たち

作 者：池野清（1913年～1960年）

制作年：1959年

サイズ：116.9×91.0 cm

技法・材質：油彩・カンヴァス

作家：池野清

池野清は長崎市出身の洋画家。独立展を発表の場とした（生涯「会友」の地位にとどまった）。単純化された風景や樹木、静物などを、厚塗りのマティエールと抑えた色調で描いた静謐な作品で知られる。また勤労者の美術愛好グループや児童に絵画を教え、草創期の長崎県展や市展で審査員を務めるなど、戦後長崎の美術振興に貢献した。

長崎市立長崎商業学校卒業後、独学で画家を志した池野は、1935（昭和10）年に《ベランダから見た庭園》で西日本美術展受賞。1937年、《海辺の静物》で第7回独立展に初入選（以後、応召から戦後の数年間を除き歿年まで連続入選する）。1941年、独立美術協会会友に推挙される。1944年、応召。1945年、長崎市において、救援活動のために原爆投下直後の爆心地に入り被爆。1949年から胸部疾患のため療養。1959年、《鳩笛たち》（長崎県美術館）が春季独立展に招待出品される。1960年に46歳で肝臓癌により他界。この年に描かれ遺作となった《木立》《樹骨》（ともに長崎県美術館）は、第28回独立展に入選した。

池野の死の翌年、友人で長崎市出身の作家・佐多稲子（1904-98）が、短編「色のない画」（『新日本文学』1961年3月号に掲載）において池野をモデルにした主人公を登場させ、さらに1972年には、その発展形ともいえるべき長編『樹影』（講談社）を出版し、同じく池野をモデルとした主人公の生と死を、理不尽な暴力への静かな怒りと深い哀惜を込めて描写した（同書は野間文芸賞を受賞）。

作品解説

池野は、1959年に鳩笛を題材とした作品を少なくとも3点制作している。《鳩笛たち》(no.29)に描かれているのは椅子のようなものの上に本物の鳩がとまっているかのように置かれた鳩笛である。濃紺色や緑褐色に白を重ねて幾何学的な構造を作り、その上から描線で鳩笛(首や尾の部分に指穴がある)を象っている。無生物を生き物のように見つめる画家の優しいまなざしが画面に詩情を生み出している。池野が直接的に戦争や原爆を題材とすることがほとんどなかったことと、ここに描かれているのが平和の象徴としての普遍性を持つ「鳩」ではなく「鳩笛」であることは無関係ではないだろう。